

編集室

20年近く前の新聞記者時代、ある県に公立の中高一貫校が創設された際、首都圏の大手進学塾を取材したことがある。私立を含めた受験地図にどう影響し、または影響しないかを塾と私立学校、行政の関係者に取材して記事にした。

当時は、小学6年生の中学受験率が今ほどは高くなかったと記憶しているが、それでも取材を通して、12歳が向き合う厳しい競争と、保護者のわが子への期待、愛情の大きさを実感させられた。

そして、ちょっと意外だった言葉を覚えている。

「保護者の多くは自分の子供に、みんなのためになるような大人に育ててほしいと願っているんですよ。中学受験は、そのために一番いいと思える環境を用意してやりたいという思いの表れなんです」

そんな意味の言葉を進学塾の関係者は口にした。意外に感じたのは「保護者は自分の子供の合格だけが目的だろう」と、勝手に私が思い込んでいたからだった。無論、合格はゴールではないのだ。

「今度初めて企業のインターンシップに参加するんです」「志望動機を聞かれて、うまく答えられるようにしたい」。日ごろ、HAKUMON Chuoの取材や編集を通して、現役学生と話す機会が多く、話題が就職活動に及ぶと、不安げな表情になる学生もいる。

周りを見ると、同級生は皆、どんどん就活を進めている(ように見える)。もう内定も出ているらしい? でも、あせりは禁物だと思う。

「みんなのためになるような社会人になる」を基本に、就活を考えてはどうだろうか。そんなの当たり前だと感じるかもしれないが、どの道(就職先)で、どんなふうに、みんなのためになろうとするのか。なぜ、その道なのか。自分の個性や特長が、その道に適しているのか。

腰を据えて、「みんなのためになる」ことの意味を考えてみるのもいい。どの道に進んでも、もし第1志望ではなくても、学生のうちに、しっかり自分と向き合ったことが、きっと未来の財産になると思うからだ。(編集長 北村豊)

STAFF

◎取材協力

学事部	国際センター
各学部事務室	入学センター
大学院事務室	キャリアセンター
学生部	学友会
ボランティアセンター	経理研究所
中央図書館	学会会 ほか

◎写真提供&協力

「中大スポーツ」新聞部

◎学生記者

本間友理香	宮田詩織	宮本大句見
中里真侑	齋藤優衣	津田翔
平岡亜美	石井伊蓊	森康太朗
松村吏紗	中村美咲	澤昌彩香
山口真歩	(順不同)	

◎制作協力

平田碧 太田まゆみ 土谷彩絵子(株式会社ツグミ)
稲葉美枝子(株式会社オーク)
桑原和彦 村田朋隆(研精堂印刷株式会社)
亀井宏昭

NEXT
ISSUE

『HAKUMON Chuo』2019 冬号
No.264 12月16日発行予定

学生記者が
総力取材!!

お楽しみに!



2019 秋号 NO.263

2019(令和元)年 9月29日発行

発行：中央大学広報室
〒192-0393 東京都八王子市東中野742-1

メールアドレス：hc@tamajs.chuo-u.ac.jp
編集担当：『HAKUMON Chuo』 ☎042-674-2048